

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	4270102637		
法人名	株式会社アイ・エル・エス		
事業所名	グループホームありすの家		
所在地	長崎県長崎市椎の木町25番19号		
自己評価作成日	平成 28年 1月 29日	評価結果市町村受理日	平成 28年 3月 31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigvovsCd=4270102637-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成 28年 3月 14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の重度化が目立ちますが、「可能性を信じて、ゆっくり待ちます」という理念の基、時間がかかっても本人ができることはなるべく本人ができるように促し、職員はできない部分をサポートしています。

信頼関係を大切に、利用者様にとって職員は家族のような存在になり、日々の暮らしを支えています。職員が温かく見守る中、ゆったりとした時間が流れている穏やかなホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者が思い思いの過ごし方で、ゆったりとした時間を過ごせることを大事にした当ホームは、親しみやすい雰囲気の中で入居者や、その家族と信頼関係を深め、家族のような関わりの中で入居者が安心できる生活を目指し職員一丸となって取り組んでいる。前年度はホームの設備的な課題を解消するため、現在の地にH26年9月に移転し新たな環境で、更なるサービスの充実に向け事業をスタートさせた。これまで法人内で別施設として運営されていた2つのホームが現在の地で同一建物に統合され、職員が話し合いの場や得意分野を発揮し、新しい発想のなかで更に入居者との時間を生み出すことに努めている。入居者の重度化に伴い意思疎通が困難となった入居者も増えているが、『嬉しい、悲しい、恥ずかしい』の感情と、その方にわずかに残された「できる事」を信じ、その方の尊厳を大事にしながら、日々入居者の心に寄り添う代表者と職員の姿に、ますます期待の持てるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 ありすの家

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームが地域密着型サービスとされる以前から、「住み慣れた地域での安心して暮らし」を理念に掲げており、利用者様が地域の中でその人らしく暮らしていけるよう取り組んでいる。	入居者が一人ひとりのペースで、思い通りの過ごし方で生活できるように、職員は時間をかけて動作を見守り、入居者の気持ちに寄り添うよう取り組んでいる。職員は業務を終わらせる事に焦る心情をお互いに理解しながら、入居者への支援を24時間を通して考え、職員間のチームワークを大事にしながら支援に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	移転後も地域住民の一員として、自治会に加入している。普段から野菜や花などをわけていたり、地域行事の際に踊りを披露するためホームに来てくださるなど、地域と交流を持っている。今後はもっと交流を深めていきたい。	転居前より職員が積極的に地域に出向くことでホームへの理解に繋げ、有事の際は自治会より地域の避難所としての相談も受けるなど地域の安心や安全に貢献している。日頃から職員や入居者が地域住民との接点を持つと共に、地域の祭りである「おくんち」の時期には踊りの披露に立ち寄って頂くなど入居者と地域の交流が図られている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	移転先の地域でも運営推進会議を通じて認知症グループホームの理解が深まっている。また、代表者が認知症サポーターの研修を受講し、今後地域貢献に活かしていきたい。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではホームからの報告とともに参加者からたくさんの質疑応答があり、活発な意見交換ができています。	会議では入居者の生活の様子をビデオで伝え、運営状況やホームの取組等理解に繋がるよう努めている。今年度の大雪に際し当日の職員対応や広域災害発生時の様子を会議参加者に伝え、入居者の安心への理解に繋げる取組も窺われた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて市役所及び地域包括支援センターの職員に参加していただいております。ホームの実情や取り組み等を伝えている。今後、解決すべき課題が生じた際には積極的に連携をとっていきたい。	推進会議に行政や包括職員の出席があり、感染症に対する対策や予防策等を伝えるなど双方向的な意見交換がなされている。独居等の事情によって家族の協力が困難な入居者に対し、権利擁護や予防について研修を重ね、専門機関と連携を図りながら入居者が安心した生活を継続できるよう努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除に関する研修を行い、身体拘束を行わないことを原則に介護にあたっている。自覚のない身体拘束を行っていないか職員同士で確認しながら改善するようにしている。	今年度は10月に身体拘束廃止について職員研修を行い、いかなる時も拘束を行わない事を徹底するよう周知した。不穏のきっかけや表情の変化を職員間で共通認識し、行動の理由や対応について介護の統一を図っている。入居者それぞれの混乱や不安感に対し、声かけ等の予防策を講じ、対応することで、穏やかに過ごせるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修を行い、高齢者虐待防止法についての理解を図っている。ホーム内で虐待行為を発見した場合の対処法についても職員に周知している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	長崎市が主催する成年後見制度の研修に2名が参加し、権利擁護について学んだことを職員に説明し、理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書、契約書、金銭管理や終末期の対応について説明し、その場で疑問点や不安事を答えて、理解、納得した上で同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族等から意見や要望があった場合は、早急に話し合い、今後のホームの運営に反映させている。また、運営推進会議に利用者様やご家族が参加しているので、外部者に思いを伝える機会がある。	家族面会時には生活の様子を口頭やビデオ等で家族に伝え、家族の介護方針を汲み取りながら思いに添えるよう努めている。家族の介護負担を考慮する一方で家族の事情によって運営方針やホームの思いが一部十分に伝えきれていない様子も窺われる。より家族やキーパーソンとの関係性を深め、意見の集約方法を工夫する事を願いたい。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを月に1回開催し、意見や提案を聞くようにしている。また、代表者や管理者は話しやすい関係づくりを大切にし、積極的に意見を聞いてその都度対応をしている。	代表は入居者や職員の身近な存在として些細な言葉に耳を傾け、要望にも即対応しながら職員が意欲的に働ける環境整備に努めている。職員間のチームワークや良好な関係性を築くことで介護のプロとして技術や知識の向上に努め、ミーティングを重ねながら入居者に対する処遇等、職員間で話し合いの場を設けながら積極的に取組めるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に現場で職員がストレスや疲労を感じていないか気を配り、働きやすい環境づくりを心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を基に職員が知識や技術を習得できるようにしている。また、希望に応じて外部研修に参加したり、資格取得の際は無理のないよう勤務の調整をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者が認知症サポーターとして他事業所の運営推進会議に参加しており、このような機会を通じて同業者とのネットワークを作り、職員同士が交流できるよう努力していきたい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず面談を行い、本人の意向や現状を十分把握した上で本人と向き合い、職員との信頼関係を築いている。入居の日には面談を行った職員が出迎えることで安心を得ている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの相談や見学の段階で困っていることや不安に感じていること、これまでの経緯についてを十分に聞き、入居後も密に連絡を取り合うことで信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人やご家族から情報収集を行い、何が必要かを一緒に考えている。場合によっては他のサービスが必要となるので、迅速に地域包括支援センターや居宅介護支援事業所に繋いでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と職員が年齢に応じた触れ合いを持ち、家族のような関係を築いている。利用者様の優しさに職員がいたわってもらったり、元気をもらうことも多くある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の来訪時は職員が積極的に声をかけ、近況を報告したり、一緒に会話を楽しむこともある。遠方のご家族には電話や手紙で本人の暮らしぶりを伝えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで会いに来られていた利用者様の知人や友人にもホームの移転のお知らせをし、移転先にも遊びに来ていただいている。	入居後であっても入居前の馴染みの深い祭や場所に触れ、昔を懐かしみ入居者の心の支えに繋げる取組がある。入居者の重度化に伴い外出や外泊も困難な状況になってきているが、家族との時間も大事にしたい想いもあり、家族の介護力や負担を取り除くことで安心して外泊や外出に繋がるよう取組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話をした方が良い利用者様とは居室で会話をしよう配慮している。また、利用者様同士が自然な関わりができるよう見守りながら場合によっては職員が調整役となりながら楽しく過ごせる雰囲気づくりをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても電話等で本人の様子を尋ねたり、ご家族からの相談に応じている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が誰を頼りにどうしたいのかを日々のかかわりの中で表情や言葉から感じ取り把握に努めている。また、本人の意向が確認できない利用者様については本人の視点に立って話し合い、検討している。	言葉が出せず、意思疎通が困難な入居者も多くなっているが、会話や表情の中から入居者の不安や混乱を汲み取り、入居者が安心して生活できるようゆっくりと寄り添い笑顔で支援するよう努めている。生活の中で表情が柔らかくなったきっかけを職員間で把握し、それぞれにあった過ごし方で過ごせるよう取組んでいる。また、記録業務の時間短縮の為書式を改善し、入居者との関わりを多く持ってもらい、ヒヤリ体験からも思いや意向の把握に繋げるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の本人、ご家族等からの聞き取りだけではなく、入居後も本人との普段の会話の中から話を聞いたり、ご家族等の訪問時に話を聞いて情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の中で利用者様の行動や発言の気づきを記録し、職員全員が話し合いをしながらその人の全体の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族と普段の関わりの中で思いや意向を聞き、職員が見たり聞いたりした情報も収集し、介護計画に反映させるようにしている。	計画立案に際しては昼夜を通した生活の様子をアセスメント集約表で把握し、本人や家族の意向を確認しながら支援方法について理解が図られている。入居者との関わりを増やしながら、その方が望む生活の実現に向けそれぞれに応じた援助内容が展開されている。	入居者に寄り添いながら課題解決に向けた支援が実践されているが、生活記録内に職員によって着眼点や記入方法のばらつきに課題が窺える。職員間でPDCAサイクル及び介護計画に反映させる記録方法について共通認識を図り、更なる支援と記録の充実に取り組む事を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が記入している利用者様の個々の記録から現在の状況や状態変化を把握し、見直しを行うようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状態の変化や重度化していく状況で、本人やご家族が必要なサービスを受けられるよう、ホームとしてできる対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々の協力を得ながら、利用者様、職員共に生き活きと過ごすことができている。自治会の会合でホームの啓発をしてくださったり、大浦くんちの際にはホームで踊りを披露してくださっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前からのかかりつけ医での医療を希望される場合は、基本的にご家族対応をお願いしているが、場合によっては職員が受診助成を支援している。また、ホームの協力医により定期的な往診、緊急時は24時間対応をいただいている。	入居前のかかりつけを継続し、協力医を含め三者で入居者の健康状態を支える取組がある。職員は入居者の細かな状態変化を見逃さず、日常的に協力医の往診を受け、入居者の各主治医に繋げている。内服の変更や相談など副作用に対する変化にも注意を払い、受診等の指示を仰ぎながら、かかりつけ医と共に健康を支えるよう取組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の職員ではあるが、看護職員を配置しており、看護の面で相談できる環境にある。また、訪問看護ステーションとの連携の機会があり、今後も何かあれば対応してもらうことにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必要な情報提供を行うとともに、早期退院に向けて、医療機関やご家族と密に連絡を取り合い、カンファレンスにも参加させていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医の判断により医療処置及び医療行為を必要とし、ターミナルと判断された場合はホームでの介護が困難なため、病院への入院又は退所となることを入居前に説明し、理解をいただいた上で契約をしている。	医療行為が中心となるぎりぎりのところまで支援し、最終的には医師や家族との相談の上救急搬送の対応となっている。緊急時の対応や対応方針を職員と話し合い、協力医と相談しながら痛み止めなどを使用し、家庭らしい環境の中で、また、馴染みの職員による優しい声かけによって穏やかに過ごせるよう取組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練を行っていても、いざという時に適切な行動をとることができるか不安という職員もいるので、緊急時のマニュアルを見直し、日中、夜間別に対応方法がわかりやすいように整備していきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	職員全員が利用者様と一緒に実践に即した避難訓練を繰り返し行っている。また、定期的に水消火器を使用した消火訓練も行っている。オール電化のため火種になるものはないが、電気火災等あらゆるリスクを想定して火災防止対策に取り組んでいる。	定期的に行われている避難訓練では年間を通して消火・通報・避難と部分的に行っており、職員が均等に体得できるよう取組んでいる。今年度は風水害の訓練に加え、大雪におけるライフラインの被害を受け職員の通勤手段等振り返りのきっかけとなった。前回の評価より備蓄品の充実に取り組む、入居者の安心や安全確保に繋げ、更に安心できる体制づくりを強化していく意向である。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の言葉遣いや対応が利用者様の人格を損なうものになっていないか、普段から職員同士でお互いを確認し合っている。また、研修やミーティングの中で、職員の意識向上を図っている。	職員は入居者の可能性を信じ、時間をかけても自分のできることを見守るよう努めている。今年度は接遇の向上に重点を置き、言葉かけの方法や相手が理解しやすい言葉かけに取り組んだ。入居者が重度化し心身機能の低下も顕著となっているが、最初からできないと決めつけず、入居者の思いに共感しながら、相手の立場に立った言葉かけをする事で、今から始まる場面が理解できるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	現在の利用者様は意思表示が困難な方が多いが、職員が何でも決めてしまうのではなく、表情や反応を読み取りながら本人の希望を把握するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の過ごし方の中で、本人の気持ちを尊重し、本人のペースで過ごせるよう柔軟な対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容院からカットに来てもらい、鏡を見ながら本人の好みや希望に合わせてカットしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握し、季節感や行事を大切にメニューづくりを心掛けている。現在は食事介助を必要とする利用者様が多いため、職員が利用者様と一緒に食事を摂ることはできない。	入居者が重度化し、自力で食事摂取できない入居者も増えているが、一緒に調理する喜びを感じ、これから始まる食事に関心や楽しみを持って参加できるよう取り組んでいる。軽量の食器の準備やそれぞれに応じた量の盛り付け方などに配慮している。自身で箸が持てる力を大事にしながら、自ら食事を口に運べる可能性を信じ、時間をかけながら支援に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量を記録し、職員が情報を共有できるようにしている。食事摂取が困難な場合、主治医と相談しながら栄養補助食品に代替する等、健康維持に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を十分理解した上で、必ず毎食後利用者様の状態に合わせた口腔ケアを行っている。医療機関との交流の中で口腔清拭の方法を学び、職員の技術の向上に繋げることができた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を通して利用者様一人ひとりの排泄パターンを把握した支援を行っている。また、意思表示ができない利用者様は本人が示すサインを把握し、見逃さないよう努めている。	「時間がかかっても自分でできる」事を大事にしており、排泄場面においてもさりげなくその場を離れる等、入居者の羞恥心や意思を表現できない事を理解し支援に取り組んでいる。オムツ使用でも日中トイレで排泄することによって日課やサイクルが整い、また、自立での排泄に改善された事例を嬉しそうに語る職員の姿が印象的であった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容を工夫し、できるだけ自然排便ができるよう努めているが、主治医と相談しながら緩下剤が必要とされる方には服用してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望があれば個々に応じた入浴支援ができるよう体制を整えるようにしている。職員が連携をとりながら利用者様に不安や負担がないよう支援している。	重度化し、自分で洗身できない入居者も増えているなか、タオルで撫でるだけでも、とできる力を大事にしながら自分で洗身できるよう介助している。入浴を拒否された入居者へも本人が嫌がる部分を取り除き、馴染みの職員が心をほぐす声かけをしながら入居者が寛いでゆったりとした入浴時間を過ごせるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人ひとりの体調を見ながら個別に休息がとれるよう配慮している。職員の都合で生活リズムが乱れないよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬の目的や副作用、用法、用量を把握し、利用者様の状態の変化があればすぐに主治医に連絡するようにしている。また、薬を確実に飲んだことを確認した職員が服薬チェック表に記名をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意とする仕事をお願いし、作業後は必ず感謝の言葉を伝え、本人の自信に繋げている。マンネリ化しないよう、利用者様一人ひとりの気持ちや力を把握し、支援していきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気や気温等に配慮しながら外の空気を吸って気分転換ができるよう心掛けている。ご家族との外出を希望される利用者様の外出支援が継続できるよう、歩行状態の維持に努めている。	入居者が重度化し、気候によって外出を嫌がる入居者が増えているが、様子を見ながらホーム周辺を散歩し近所の畑を眺めに出るなど、入居者の気持ちの安らぎに繋げている。入居者の気持ちが高ぶった際には職員と一緒に歩き、不安や寂しさに寄り添いながら、それぞれの希望に応じて外出を行うよう努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手元にお金がないと不安に感じてしまう利用者様には、財布や巾着袋等に入れ側に置いておくことで安心される場合もあるので、その人に応じた対応をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はコードレスフォンのため、人目を気にせず安心して使用することができる。かけられない利用者様には職員が代行して電話をかけ取次ぎをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾りつけが幼稚なものにならないよう配慮し、季節を感じる事ができるよう内容の工夫をしている。リビングは台所から見えるようになっているので、食事を作っている時も誰かいてくれているような安心感がある。	清潔感と女性らしい設えが施された共用空間では、入居者がそれぞれに趣味や読書にと思いいに自由に時間を過ごせる工夫がある。入所して間もなく、場所を混乱する入居者には入口にわかりやすく示し、安心して過ごせるよう努めている。街並みに面した大きな窓からは、馴染みの風景を眺める事ができ、木々や花の色づきからも季節を感じ寛げるよう取んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルから離れ1人で過ごしたり、気の合う利用者様同士でくつろいだりできるよう、リビングにソファを設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物やご家族の写真等を持ってきていただき、本人が好む居室づくり、リラックスして過ごせる環境づくりに配慮している。	入居者の趣味や好みを活かし、家族と相談しながらその方に応じた部屋作りとなっている。居室には入居者が自宅で使っていた筆筒や家族の写真が持ち込まれ、馴染みの手回り品で身なりを整え、家族が準備した寝具で横になる等、これまで大事にしてきた思いや家庭らしさを大事に支援に取組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態を把握し、何が必要なのかを見極めながら状況に応じた環境整備に努めている。		